

|         |               |          |          |
|---------|---------------|----------|----------|
| 卒業研究    |               | 演習       | 教授 安藤 鋭也 |
| 科目カテゴリー | 国際ビジネス学科の必修科目 | 科目ナンバリング | 21300401 |

### 1. テーマ

会計に関する諸問題を研究します。

### 2. ゼミのねらい・概要

3年次の専門ゼミで習得された知識を活かして、それぞれの問題意識に基づく研究テーマに、主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

卒業論文の作成において、ある論点に関して複数の立場を採り得る場合、どの立場をとっても構いません。ただご自身の立場(見解)を論理的に説明できることが望まれます。

卒業論文の作成を通して、社会に出られた後も役立つ実践的な能力(会計リテラシー)を身につけてもらえるよう指導します。関心のある方には、関連資格(例えば公認会計士、公認不正検査士、公認内部監査人)の指導も行います。

### 3. ゼミ計画

概ね以下の通りです。皆さんの希望を出来るだけ取り入れます(ゼミの主役は皆さんです)。相談しながら進めましょう。

| 〈前期〉                      | 〈後期〉                     |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. ガイダンス(履修指導)            | 1. ガイダンス(卒論完成に向けた学修計画作成) |
| 2. 卒業論文指導①(実際の卒業論文の紹介や解説) | 2. 卒業論文の中間発表①(学生3～4名)    |
| 3. 卒業論文指導②(テーマの選び方)       | 3. 卒業論文の中間発表②(学生3～4名)    |
| 4. 卒業論文指導③(構成の組み方)        | 4. 卒業論文の中間発表③(学生3～4名)    |
| 5. 卒業論文指導④(参考文献の選び方)      | 5. 卒業論文の中間発表④(学生3～4名)    |
| 6. 卒業論文指導⑤(図表などの表記の仕方)    | 6. 卒業論文の中間発表⑤(学生3～4名)    |
| 7. 卒業論文指導⑥(結論の導き方)        | 7. 卒業論文の中間発表⑥(学生3～4名)    |
| 8. 卒論テーマの口頭発表①(学生3～4名)    | 8. プレゼンテーションの指導          |
| 9. 卒論テーマの口頭発表②(学生3～4名)    | 9. 卒業論文の最終発表①(学生3～4名)    |
| 10. 卒論テーマの口頭発表③(学生3～4名)   | 10. 卒業論文の最終発表②(学生3～4名)   |
| 11. 卒論テーマの口頭発表④(学生3～4名)   | 11. 卒業論文の最終発表③(学生3～4名)   |
| 12. 卒論テーマの口頭発表⑤(学生3～4名)   | 12. 卒業論文の最終発表④(学生3～4名)   |
| 13. 卒論テーマの口頭発表⑥(学生3～4名)   | 13. 卒業論文の最終発表⑤(学生3～4名)   |
| 14. 卒論テーマの口頭発表⑦(学生3～4名)   | 14. 卒業論文の最終発表⑥(学生3～4名)   |
| 15. まとめ(後期に向けた学修計画作成)     | 15. まとめ                  |

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

皆さんの研究テーマに関する知識習得と分析・考察を計画的に行うことが求められます(最低限、週に2時間程度)。ゼミにおける口頭発表・中間発表・最終発表に向けた準備も欠かせません(リハーサルを含めて、週に3時間程度)。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

研究の進捗(口頭発表・中間発表・最終発表)に応じて、個別に補足すべき点を指導します。卒業論文提出後も、残された課題や今後の方向性に関するコメントを通して、一人一人が社会に出られた後も活躍できるよう助言します。コメントの通知方法は事前にお知らせします。

### 6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文をまとめることが目標です。その過程を通じて、様々な気づきを得ることも狙いです。

## **7. 成績評価の方法・基準**

卒業論文の内容(60%)・ゼミへの取り組み姿勢(40%)で成績評価を行います。

## **8. テキスト・参考文献**

各自の研究テーマに沿うと思われる文献などを個別にご紹介します。

テキスト・参考文献には指定しませんが、”黒木登志夫(2011)『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合、英語の場合ー』中央公論新社”の一読をお勧めします。

## **9. 受講上の留意事項**

卒業論文のテーマは、どこか(または何らかの形)で会計に関(連)していれば何でも結構です。皆さんが最も関心をお持ちのテーマを選んで、思う存分腕をふるって下さい。主体的・積極的な参加を心から歓迎します。

## **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本ゼミは、商社(経理部門)における実務経験も活かして指導します。

## **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。